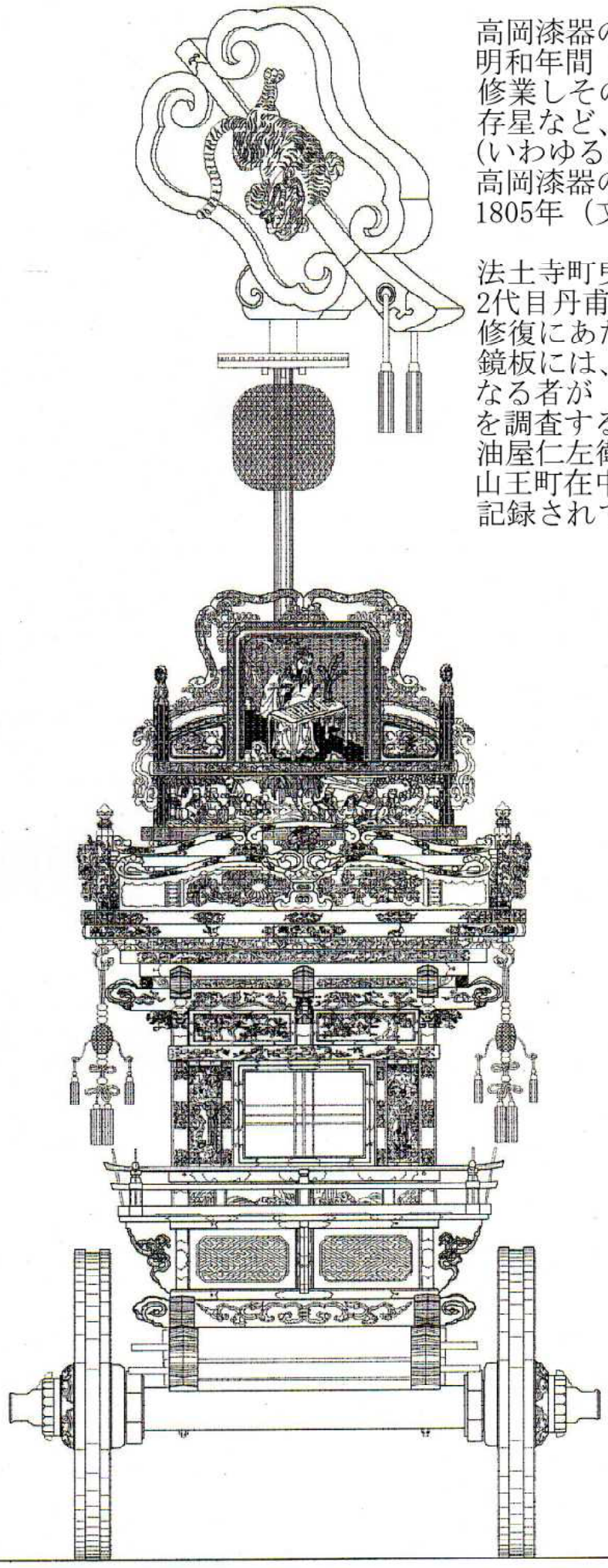
法土寺町曳山後面図

辻丹甫（つじ たんぽ）

高岡漆器の元祖といわれる人物です。
明和年間（1764年から1771年）頃に京都で
修業しその後高岡に戻り、擬堆黒・擬堆朱、
存星など、唐風の漆器技法
（いわゆる「丹甫塗」）を伝え
高岡漆器の基礎を築き、
1805年（文化2年）に84歳で没しました。

法土寺町曳山中山から上山部の彫刻は、
2代目丹甫の作と言われ、高瀬竹之助も
修復にあたると記録にあります。
鏡板には、中国那殷時代「父康鼎」
なる者が【鐘鼎文】（しょうていぶん）
を調査する様子を刻むとあり、
油屋仁左衛門（当時の宮源の家で
山王町在中と記）の寄付と
記録されています。



設計・製作
安永（一七七五年）
高瀬竹次郎（高瀬一門）
加賀藩御用大工

後面図

平成一八年
高山祭屋台保存技術協同組合
理事長　八野　明
調査設計　中田　秋夫

新湊 法土寺町曳山 調査実測図　縮尺 10:1